

ワークショップ(第2回)概要

○日時 2022年6月15日(水) 10時00分から12時00分

○場所 オンライン

- 議題
- ・パビリオンのユニバーサルデザインに関する報告(ヒアリング経過・意見まとめ)
 - ・パビリオンの平面プラン案
 - ・ヒアリングの主な意見と今後の方針
 - ・パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの方向性・検討方法案の報告
 - ・今後の予定

○出席者

エキスパート	石塚裕子			
お困りごと当事者 14人	車いす使用者	5人	発達障がい者(親と参加)	0人
	視覚障がい者	3人	発達障がい者の親	1人
	聴覚障がい者	2人	LGBTQ+	0人
	精神障がい者	1人	医療的ケア児(親と参加)	0人
	知的障がい者(親と参加)	0人	子育て世帯	1人
	知的障がい者の親	1人		
作り手企業	—			
業務受託者	株式会社東畑建築事務所 博報堂・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共同企業体(博報堂JV)			
傍聴	—			

○配慮事項

資料のワードテキスト文書(事前送付)、要約筆記、立体コピー(事前郵送)

○議事要旨

- パビリオンのユニバーサルデザインに関する報告
ヒアリングの振り返りと、建築だけでなく展示や運営に関する意見も含め9項目にまとめたことを報告した。
- パビリオンの平面プラン案
基本設計が完了し、平面プランについて、前回からの変更点と展示ルートを2ルートから1ルートに変更したことを説明した。
- ヒアリングの主な意見と今後の方針
ヒアリングでの主な意見と今後の方針を説明した。当事者からは方針に対しての意見や提案があった。
- パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの方向性・検討方法案の報告
博報堂JVから、誰もが楽しみ、快適に過ごせるパビリオンの実現をめざすために、当事者の意見を取り入れ、プロセスそのものも楽しみながら一緒に取り組んで行くことを伝えた。
- 今後の予定
建築は6月から実施設計に着手し、設計の進捗に応じて、案の提示やモックアップ検証を行い、展示・運営は、設計計画の進捗に応じてワークショップ・ヒアリングを行うことを伝えた。また、建築と展示の工事中には現地検証、開幕直前には運営訓練を実施し、万博開幕中には、運営検証、会期後には全体を通じたまとめを行うことを伝えた。

大阪パビリオンの ユニバーサルデザインに関するご報告

2022.6.15

万博推進局

大阪パビリオン UD関係者ヒアリング 経過

テーマ	日時	ヒアリング内容	参加者
移動①	2022/3/8 10時～12時	館内の移動計画（EV、スロープ等）	<u>車いす利用者</u> 他
トイレ①	2022/3/8 13時半～15時半	トイレの平面計画（機能分散など）	<u>車いす利用者</u> 他
移動② トイレ②	2022/3/14 10時～12時	館内の移動計画（EV、スロープ等） トイレの平面計画（機能分散など）	<u>視覚障がい者、 聴覚障がい者</u> 他
カームダウン・ クールダウン①	2022/3/14 13時半～15時半	カームダウン・クールダウンのための 部屋、設備のあり方	<u>知的障がい者、精神障がい者、 発達障がい者</u> 他
移動③ トイレ③ カームダウン・ クールダウン③	2022/3/25 10時～12時	館内の移動計画（EV、スロープ等） トイレの平面計画（機能分散など） カームダウン・クールダウンのあり方	上記に参加できなかった 方を中心

大阪パビリオン UD関係者ヒアリング 意見項目一覧

1. 方向性・進め方

会場内の共通化

ルート・移動手段

カームダウン
クールダウン

トイレ

配置 便房内設備

進め方

進め方 モックアップ検証

2. ルート・移動手段

ルート

ルートの輻輳 同じルート 合流 ルートの離脱 進む方向 ショートカット

スロープ・通路

長さ 幅 勾配 手すり 休憩・待合スペース

EV

大きさ

階段

3. 展示

ハード面

モビリティ レストラン ミライのエンタメ 観覧スペース 照明

誰もが楽しめる工夫

振動・光 音・匂い 触覚 モバイル 色 モビリティ

展示
メッセージ

4. 来館者への対応

来館者の事前準備への対応

幅広い発信 事前にほしい情報 WEB

来館者へのパビリオン内での対応

受付・案内所 スタッフ案内 食事

聴覚障がい者のアテンド 案内表示板
デジタルサイネージ

カームダウン・クールダウンルーム利用者へのアテンド

リーフレット

情報端末
支援アプリ

音声案内

貸し出し対応

車いすの貸出 充電設備

行列への対応

予約方法 暑さ対策 ミライのエンタメ（催事場）

5. トイレ

パビリオン内の配置と運用

配置 運用・考え方

案内

配置図・触知図 空き表示
点字ブロック・音声案内 サイン

便房の種類・数

大型車いす便房 共用トイレ
一般便房 オストメイト こども・ベビーカー利用

便房の広さ

車いす用便房
一般便房

扉

開き勝手
間口

トイレ内の設備

フィッティングボード ベンチ 大型ベッド
災害時・緊急時 音姫・サンタリーボックス
洗浄ボタン 手すり カーテン

6. カームダウン・クールダウン

設置

位置 数 広さ 休憩室 入口

内装・設備

壁 光 音 グッズ 鍵 呼出ボタン

利用者への配慮

事前予習 アテンド マップ

7. サイン

サイン・誘導

表示 色 模型 床仕上げによる工夫

8. 災害時対応

避難

避難経路 避難階段 避難誘導

9. スタッフの職場環境

職場環境

バックヤード スタッフ雇用

1. 方向性・進め方

万博会場全体での共通化

・統一は、今までなかった試みとなるので、2050年に向けて万博から発信を

ルート・移動手段

- ・スロープでの移動は、誰もが同じルートで楽しめ、インクルーシブの発信にもなる。ぜひ2050年のユニバーサルデザインをめざしてほしい
- ・これからのモデルになるような未来のEVをめざしてほしい

カームダウン

- ・万博会場全体は難しいと思うので大阪パビリオンの中だけでも作成してほしい
- ・大阪ならではのカームダウン・クールダウンにしてほしい

トイレ

配置

- ・男、共用、女の、トイレ内の並びを会場内で統一してほしい
- ・便所の並びについて、例えば、広い方は奥、狭い方は手前に設置など、共通化されているとわかりやすい
- ・トイレ内の男、共用、女の並びについては、PV内の1、2階で共通か？万博会場内でも統一できる部分は統一してほしい

便房内設備

- ・一般トイレの便房内の設備配置は万博会場内でパブリックモデルに統一してほしい
- ・一般トイレはボタンの形式や設置位置を博覧会モデルに統一してもらえるとありがたい
- ・統一は、今までなかった試みとなるので、2050年に向けて万博から発信を

進め方

進め方

- ・後から特別対策が必要、とならないように

モックアップ検証

- ・便房の奥行や幅はモックアップ検証しないと使用できるかどうかの判断困難
- ・一般用トイレもモックアップ検証してほしい
- ・モックアップ検証の時に視覚障がい者の参加もお願いしたい
- ・車いす用トイレの扉や便器等の配置は、いろんなパターンの検証を
- ・閑空のモックアップ検証が移動円滑化近畿分科会のHPで確認できる

2. ルート・移動手段

ルート

ルートの輻輳

- ・AとBルートは重なってる？

同じルート

- ・主動線が同じ、足が不自由でも同じルートを通れるというのはとても良い

合流

- ・友人や家族で来た場合、モビリティに乗る人乗らない人の合流は可能か

ルートの離脱

- ・体調によっては展示を全部見るのがしんどいことがあるので、一部だけ見たり、途中で抜けることができるといい

進む方向

- ・逆走ルートの確保が必要
- ・トイレなどに行ったあとに元の場所に戻りたい
- ・一方通行の原則は崩せない？展示やカームダウンとトイレなど行き来したい
- ・会場の混雑具合によるが、すし詰め状態になると、逆行は論外

ショートカット

- ・歩行困難者のためなど、EVを利用する人のルートも考える必要があると思う
- ・スロープに展示がないと、ただの通路になり、EV利用者が増えるのではないかな？

スロープ・通路

長さ

- ・スロープはしんどい人がある
- ・展示がなければ長く感じる

幅

- ・必要最小限の幅員は？
- ・『ゆっくり移動』と『早く移動』の動線が必要
- ・1列か2列を想定か？

勾配

- ・1/20勾配はいい ・横勾配は？
- ・主動線なら勾配はゆるく
- ・スロープの移動が苦手な人もいる
- ・1/20勾配の下りでもしんどいと感じる方もいる
- ・手話をしながら歩くので、足元を気にしなくていい

手すり

- ・手すりを利用する人もいる

休憩・待合スペース

- ・スロープの途中で休憩できるスペースやエスケープゾーンがあるといい
- ・動線と静止空間を分ける事例が成田空港にある
- ・待合せエリアを作してほしい(例)円の中に足跡マークなど
- ・子どもも大人も関係なく、「この床のサインの場所に最後に集合しよう」など決めることができた方がいい

EV

大きさ

- ・EV使用のルートを設定するなら、EVは大きい方がいい17人用で足りるのか？

階段

- ・動線は階段の移動も含めて検討した方がいい

3. 展示

ハード面

モビリティ

- ・何分乗るのか
- ・何人乗り？
- ・車いす利用者は乗れるのか
- ・車いすのまま乗れるようにしてほしい
- ・グループで楽しめるよう複数乗車できることは大事

レストラン

- ・レストラン内の通路は車いすが通れる幅を確保してほしい

ミライのエンタメ（催事場）

- ・床はフラット？
- ・座席数は？
- ・車いすなどの障がい者用の座席はある？
- ・待ち時間は？
- ・出入りの動線は？

観覧スペース

- ・読んだり聞いたりするのに時間がかかる。列を乱さずに展示を楽しめるスペースはあるのか

照明

- ・足元に照明がほしい。暗いと口元や手話が見えないので会話できない

誰もが楽しめる工夫

体験方法

- ・音声を振動や光に変えて演出すれば、聞こえなくても感じることができる
- ・振動を活用した展示
- ・音楽のイメージがリズムでわかると一体感を持って体験できる
- ・展示内容が「携帯アプリの音声案内」や「ハンディガイドの貸出」等で理解できるといい
- ・見えなくても楽しめる展示がいい
- ・視覚障がい者に限らず触って楽しめる展示がいい

空間把握

- ・階や部屋の区別をするために音や匂いを変える

色

- ・弱視者対応は文字の白黒反転
- ・やさしい色の使用がよい

モビリティ

- ・内容が音声などの視覚以外の方法でわかるのか。静かな中で終わるのは寂しい
- ・結果を音声で伝えると体重や骨年齢等を同乗している人に知られてしまう

展示メッセージ

- ・健康という視点で聴力を大事にするというトピックを入れてほしい

4. 来館者への対応

来館者の事前準備への対応

幅広い発信

- ・大阪メトロはバリアフリーの事例を車内広告で広く発信している。そういう形で当事者やいろんな人に周知できれば

事前にほしい情報

- ・カムダウン・クールダウンルームのJISマークにイメージ写真や説明もプラスすれば、子供や高齢者、障がい者のいる家族も個人で初めて利用する人もわかりやすく予約できる
- ・フードの提供がある場合、どんなサービスがあるか事前にわかると助かる

WEB

- ・事前にホームページなどで、各パビリオンの内容や音声案内の有無など、大まかでもわかるといい

リーフレット

- ・事前にパンフレットの取寄せができる
- ・予約できる

情報端末・支援アプリ

- ・各パビリオンの混雑状況などを個々のデバイス、スマホで取得できるといい
- ・いろんな情報をアプリで取得できるといい

来館者へのパビリオン内での対応

受付・案内所

- ・受付に耳マーク、手話マーク、国際手話等の案内があると、聴覚障がい者も楽しめるという発信になる

スタッフ案内

- ・スタッフの案内は、手話やジェスチャーを交えてほしい

食事

- ・リボンレストランでの食事方法は？食べ歩きを認めた場合、飲食の匂いが気になることがある

案内表示板 デジタルサイネージ

- ・羽田空港では、カムダウン・クールダウンという電子表示板を押したら、場所がパッと出てきたり、トイレ情報も表示されていてわかりやすかった
- ・車いすや杖使用者、背中が曲がっている人の視線は低いので、デジタルサイネージの位置によっては光の加減で見づらい
- ・センサーマップには光・音・匂いなどの情報を表示してほしい
- ・多言語型のデジタルサイネージで表示してほしい
- ・行列が何の列かわかるように音声と表示がほしい

聴覚障がい者のアテンド

- ・日常のコミュニケーションは手話や筆談、音声認識アプリを使用
- ・手話言語の人には手話がないと伝わらない
- ・手話のことは、ろうあ団体の人に意見を聞くのがよい
- ・手話通訳には日本手話と国際手話があり、どちらも表示できるとよい
- ・モニター案内に、ワイプ(文字?)だけでなく手話通訳の案内があるといい

- ・リーフレット等に、カムダウン・クールダウンルームのJISマークにプラスして、イメージ写真や説明もあれば、どんな場所なのか初めての人もわかりやすい
- ・予約ツールとしてセンサーマップを作成してほしい。

- ・視覚障がい者に限らず、音声ガイドで展示の説明を受けられれば安心
- ・UDトークを大阪パビリオンでも作れば良いと思う
- ・日常のコミュニケーションは手話や筆談、音声認識アプリを使用している
- ・迷ったときに現在地がスマホで確認できればありがたい
- ・シミュレーションアプリやナビ、マップで事前予約したい

カムダウン・クールダウンルーム利用者へのアテンド

- ・ルームを一人で利用する人のために、必要に応じてスタッフが付き添ってほしい

音声案内

- ・音声案内は、スムーズな移動につながる

貸し出し対応

車いすの貸出

- ・貸出用の車いすも考えてみては？
- ・車いす貸出は、愛知博では高齢者が多く来場し不足していた。
- ・利用想定数を検討してほしい

充電設備

- ・各施設に、スマホや電動車いすの充電設備があるといい

- ・スマホ未使用者には、万博会場で貸出し、新しい体験ができればいい

行列への対応

予約方法

- ・高齢者や障がい者の優先時間を設定するなどの工夫が必要ではないか

暑さ対策

- ・行列を想定した庇等の暑さ対策は？体温調節が難しい障がいもある

ミライのエンタメ（催事場）

- ・待ち時間は？

5. トイレ

パビリオン内の配置と運用

配置

- ・1F、2Fのどちらかのトイレに人が集中しないか
- ・女性用少。風営学会基準よりスフィア基準を参考
- ・機能分散の整理が必要

運用・考え方

- ・混雑時に職員用トイレも使用
- ・見えにくい障がいの人でも堂々と使える仕組みを
- ・重複障がい、LGBTQ、ダブルマイノリティの人も。見かけは男性で中身は女性もいて配慮が必要

案内

配置図・触知図

- ・印刷物で事前配布してほしい。パビリオン全体も含め、事前に触っておける方がありがたい
- ・触地図について、事前配布して見てもらうのが一番いい。現地の触知図もあった方がいい
- ・トイレの触地図、触りたくない人もいる
- ・弱視者としては白黒にはこだわらないが貼ってあると確認ができる
- ・点字は賑やかな中でも読めて確実に情報が入るので、点字で情報があるとわかりやすい

空き表示

- ・パッと見てどこが空いているのかわかるようにしてほしい
- ・入口に混雑状況がわかるモニターがあれば、中に入らなくてもトイレ前で並ぶことが可能

点字ブロック・音声案内

- ・各トイレのエリアごとに音声ガイドや点字ブロック等で誘導を
- ・音声案内がないと見つけにくく、何がどこにあるかがわからない

サイン

- ・共用トイレのサインは、多目的トイレや多機能トイレと表示すると一般の方も使用してしまう

便房の種類・数

大型車いす便房

- ・普段トイレを利用しない車いすユーザーも利用する
- ・全体の1/3が車いす用で、数的には満たしている
- ・電動車いすユーザーが使えるブースの数
- ・数が足りるか不安

共用トイレ

- ・左麻痺、右麻痺の方が使用できる設備配置を
- ・車いすと一般利用者を分けるために、共用トイレにも一般ブースを設置
- ・バス度が低い人も入りやすいトイレ必要
- ・車いすのことを考えると多目的トイレは使いにくい
- ・男女共用やバリアフリー用に並ぶ人が増えると、必要とする人が使えなくなる
- ・利き手の違いで車いす便房の左右を変えるように、男女共用トイレエリア内での機能分散を

便房の広さ

車いす用便房

- ・1,500×1,800だと手動車いすでも横付けで移れる人だけ。サイズが厳しいのでモックアップ検証を
- ・男女共用の便房(1,500×2,140)は、義足の人はこれくらいの大きさの方が利用しやすい
- ・車いす便房は広すぎて出口などわかりにくい

一般便房

- ・男女各トイレにも車いす用を設置しては
- ・一般便房がベビーカーごと入れる大きさだと機能分散になる
- ・松葉杖、高齢者(杖)は一般トイレを使用する

オストメイト

- ・大型便房以外にも男女トイレにそれぞれ1基ずつ、または、男女共用の小さめのブースにほしい

こども・ベビーカー利用

- ・キッズトイレは計画しているか？
- ・一般便房がベビーカーごと入れる大きさだと機能分散になる

一般便房

- ・一般便房にベビーカーごと入れると機能分散になる
- ・狭いブースが利用しやすい

扉

開き勝手

- ・引き戸が基本だが、折れ戸・内・外開き等を整理・検証を
- ・健常な高齢者でも外開きだと空気が分らない
- ・内開きは白杖でわかるが外開きは手で1つずつ触らないといけない
- ・内開きの方が空を見つけやすい
- ・松葉杖だと内開きは狭いので外開きが良い
- ・内開きでジャバラでない形がいい
- ・折れ戸の使用も検討を
- ・折れ戸は開け方がわからず困ることがある
- ・折れ戸は鍵の位置がわかりにくい

間口

- ・脊髄損傷者は、一般便房の間口を広くして便器に対してまっすぐに入ることができれば自己導尿の対応はできる
- ・ベビーカーの入口は車いす利用者も利用できるようにしてほしい

トイレ内の設備

フィッティングボード

- ・フィッティングボードが置かれていないと利用難しい場合がある
- ・女性がパンストを替える、小さい子ども、精神障がい者で下痢をしやすい方、高齢者尿疾患のある方、自己導尿されている方など、着替えることはよくあるので一般トイレにも男女2か所ずつくらい設置を
- ・便房内に設置されている方が1回で済みますことができる
- ・家族でも使えるフィッティングルームがあれば

災害時・緊急時

- ・災害時用フラッシュライトの設置検討を
- ・各個室に設置せずともフラッシュがわかればよい
- ・体調不良時に使うブザーは各個室にほしい

洗浄ボタン

- ・高齢者にとっても流すボタンの形状がバラバラだと困る
- ・洗浄ボタンが見つからず、使い方もいろいろあり戸惑ってしまう

手すり

- ・一般便房等全てのトイレに手すりがあると安心

ベンチ

- ・カームダウン・クールダウンの場所としても使える
- ・大型ショッピングモールのトイレ内ベンチは使い勝手が良い

大型ベッド

- ・おむつを利用している高齢者の来場も増える可能性がある

音姫・サニタリーボックス

- ・男性用トイレにも「音姫」の設置を
- ・男性用の全ブースに脱臭機能のあるサニタリーボックスの設置を

カーテン

- ・男女共用トイレに異性同伴利用を考慮しカーテン設置を
- ・車いすの操作の支障になる。アコーディオンカーテンならよい
- ・便器から離れた方にカーテンを設置すれば矛盾が解消できる

6. カームダウン・クールダウン

設置

位置

- ・1階アトリウムと2階モビリティ降り口付近に各1ヶ所の配置は妥当。空きスペースの有効活用は大事
- ・排気口を避けた位置
- ・設置位置は当事者に意見を聞く方がよい

数

- ・広すぎるなら分割してほしい
- ・大きさ変えて2つ配置しても

広さ

- ・横になれるスペース
- ・広い部屋を2分割しても家族で入れると思うが、壁をはずして1部屋にできるようにしてほしい

休憩室

- ・休憩室はカームダウン・クールダウンとは別
- ・簡単に休憩できるスペース
- ・落ち着く、休憩がとれる

入口

- ・入口幅を確保
- ・中部国際空港では、入口を暖簾、足元見える
- ・足元は見える方がよい

内装・設備

壁

- ・落ち着いた色、やわらかい素材、緩衝機能
- ・中部国際空港では、壁をヒノキ
- ・休憩の仕方、吸音パーテーション

光

- ・視界遮るカーテン、暖簾洋服のフード、サングラス
- ・照明は間接照明調光も

音

- ・ヘッドフォンで自分の必要な音だけ取得
- ・遮音性低いならイヤーマフを設置
- ・聴覚過敏には遮音でBGMなし
- ・イヤーマフの使用

グッズ

- ・落ち着く、休憩や仮眠がとれる設備
- ・待てる仕組みアイキャッチ
- ・時計は必要。上の方に設置
- ・なるべく物は置かない
- ・休憩の仕方、リラククスボックス、嘆きのツボなど

鍵

- ・施錠による閉じ込め対策
- ・防犯対策必要
- ・必要としない人が占有する可能性あり
- ・鍵の有無は1階と2階でパターン変えても

呼出ボタン

- ・一人で利用する人のために、スタッフの呼び出しボタンがほしい

利用者への配慮

事前予習

- ・シミュレーションアプリやセンサーマップ、ナビ的なもので事前予習したい
- ・事前にカームダウン・クールダウンがあることを周知してほしい
- ・WEBで、未経験者にカームダウン・クールダウンはどんなものなのか知ってもらう
- ・WEBに家でできる使い方の練習方法を掲載し、練習してもらえれば本番で安心して使用できる

アテンド

- ・一人で利用する人のために、必要に応じてスタッフが付き添ってほしい

マップ

- ・センサーマップを作って、光・音・匂いなどの情報を表示してほしい

7. サイン

サイン・誘導

表示

- ・乗り物の乗降や列について歩くのに時間がかかる。周りに人がいないとルートを見失ってしまう。そのあたりの誘導が必要
- ・どこに進めばいいのかわis覚的にわかるといい

色

- ・弱視者には色を変えることも大切

模型

- ・全体が触れるパピリオン全体の模型があると空間が把握しやすい

床仕上げによる工夫

- ・点字ブロック以外で足裏でわかる素材の道標はあるか
- ・ゴム素材は白杖が引っかかりやすい。カーペットなどの素材がいい
- ・床材の違いはスムーズな移動につながる
- ・点字ブロックの代わりにレールや芝生を配置し、通路をわかりやすくしている事例があった
- ・点字ブロックは、トイレやエレベータなどの主要箇所には必要だが、それ以外の場所にあると引っかかるので危ない
- ・起点となるところの床材が少し違うなどの工夫があると、出発点に戻ってきたという安心感があるし、行きたい方向がつかみやすくなる
- ・床材の色や素材で視覚的に動線と静止空間が区別できる工夫をしてほしい

8. 災害時対応

避難

避難経路

- ・経路を具体的に示してほしい
- ・避難経路としてスロープを逆走することもあるのでは？

避難階段

- ・避難階段はある？

避難誘導

- ・スロープや廊下の足元をブラックライトで照らすなど検討してほしい
- ・避難経路を視覚的にわかりやすくしてほしい
- ・アプリやデジタルサイネージを利用すれば、より鮮度の高い情報が得られる

9. スタッフの職場環境

職場環境

バックヤード

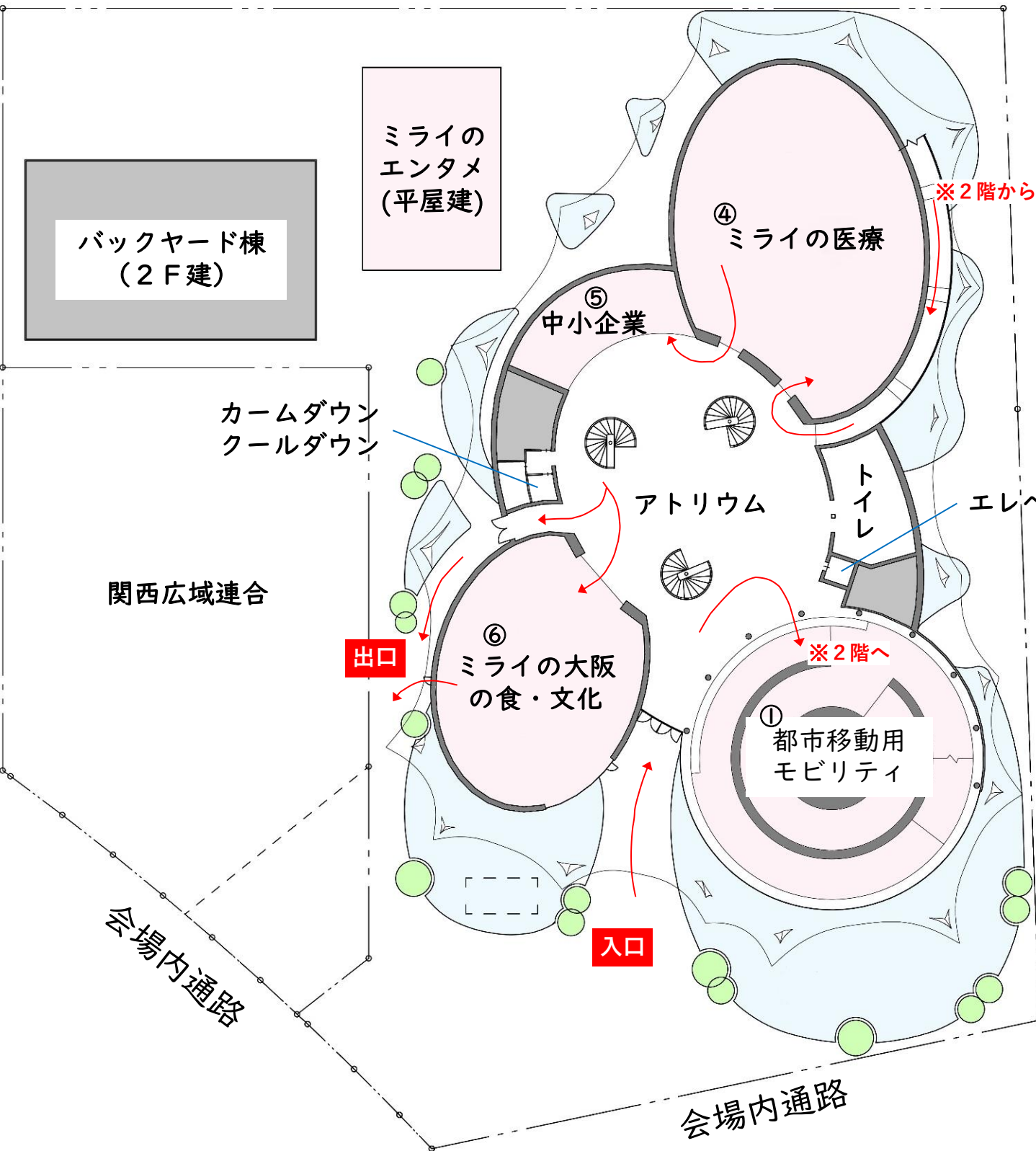
- ・パピリオンで障がい者が働くなら、バックヤードのバリアフリーなどの基準はあるか？

スタッフ雇用

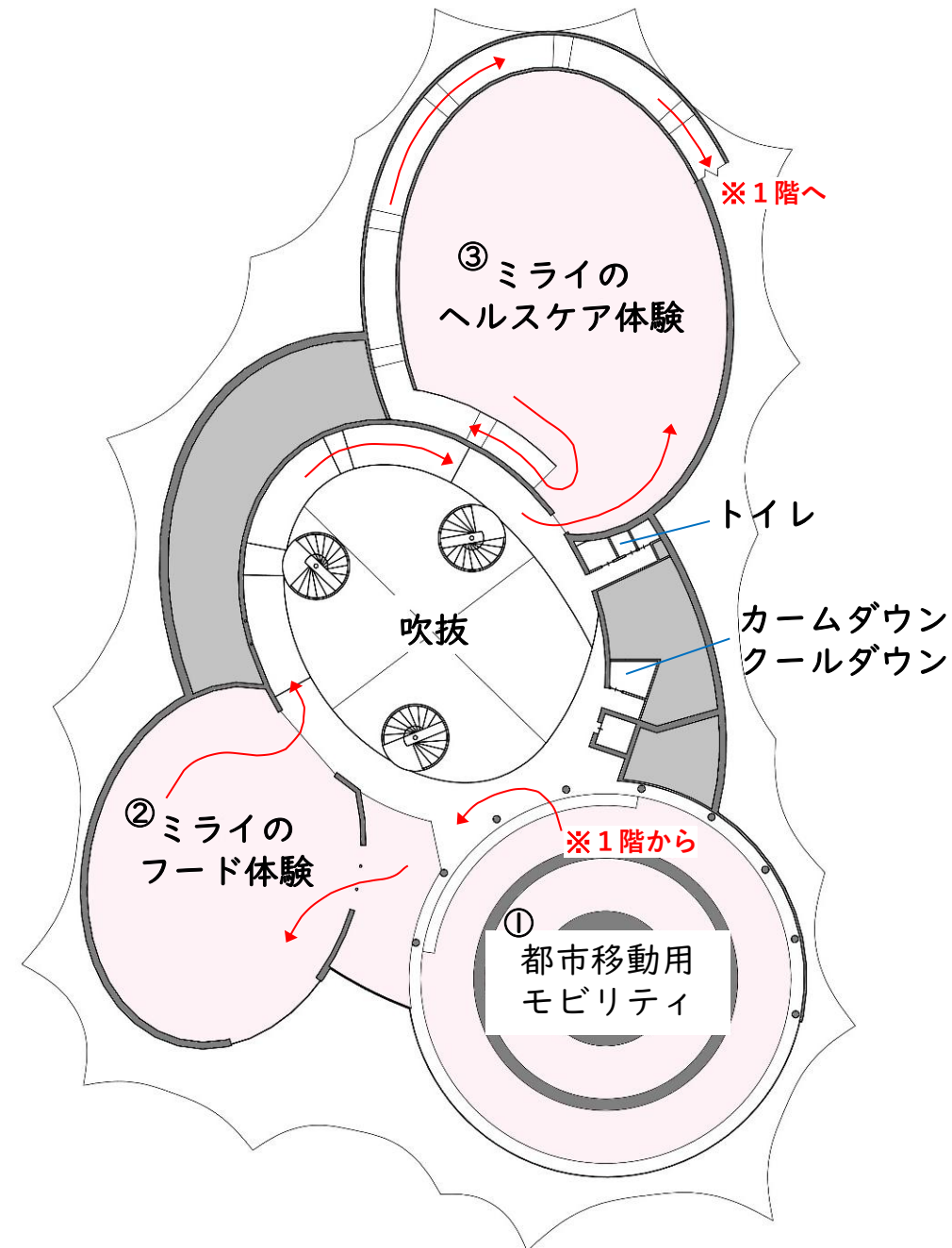
- ・東京ディズニーランドは知的障がい者の雇用が進んでいる

大阪パビリオン 平面プラン案

1階



2階



<ヒアリング時の平面プランイメージからの主な変更点>

- ① モビリティ・展示室の配置を変更
 ➡3月のヒアリングやドバイ万博の運用状況等をふまえ、円滑でわかりやすい体験とするためワンルート化
- ② ミライのエンタメの別棟
 ➡運営のしやすさ等を考慮し、さまざまなコンテンツを柔軟に提供できるよう別棟化
- ③ バックヤードの別棟
 ➡コスト削減、運営のしやすさを考慮し別棟化

大阪パビリオン UD関係者ヒアリング 主な意見と今後の方針

1. 方向性・進め方

<主なご意見>

- 万博会場全体での統一化は今までなかった試み。2050年に向けて万博から発信を。
- 後から特別対策が必要、とまらないように。モックアップをしてほしい。

<今後の方針>

- 博覧会協会と情報共有、連携しながら、モデルとなるパビリオンをめざす。
- 製作や工事の前に、可能な限りモックアップによる検証や現地確認などを行う。

2. ルート・移動手段

<主なご意見>

- スロープが主動線なら勾配はゆるく。1/20勾配はいい。しんどい人もいる。
- スロープに展示がないとただの通路となり長く感じる。
- 途中で休憩できるスペースやエスケープゾーンがあるとよい。
- EV使用のルート設定ならEVは大きい方がいい。

<今後の方針>

- 手すり等の詳細や休憩・待合スペースの設定は、建築実施設計で検討を進める。

3. 展示

<主なご意見>

- モビリティは車いすのまま、またグループで楽しめるようにしてほしい。
- 読んだり聞くのに時間がかかる。列を乱さずに展示を楽しめるスペース確保を。
- 見えなくても楽しめる展示いい。音声を振動や光に変えて演出すれば、聞こえなくても感じるができる。触って楽しめる展示がいい。

<今後の方針>

- 展示設計、運営計画で検討を進める。

4. 来館者への対応

<主なご意見>

- 事前にホームページやパンフレットなどで各パビリオンの内容や音声案内の有無、光・音・匂いなどの情報がわかると予習できてよい。
- 混雑状況や展示説明など、いろんな情報をアプリで取得できたらよい。
- モニター案内に文字だけでなく手話通訳の案内があるとよい。
- 行列を想定して、高齢者や障がい者の優先時間の設定や、庇等の暑さ対策が必要。

<今後の方針>

- 建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。

5. トイレ

<主なご意見>

- 見えにくい障がいの方も堂々と利用できるよう、配置やサインの仕組みを。
- トイレの配置図を事前に配布してもらえると予習できて、ありがたい。
- 便房の種類など、機能分散に関して多数の意見あり。モックアップ検証を。
- 便房の扉の使い勝手は様々なので整理検証を。他、設備に対して多数の意見あり。

<今後の方針>

- 建築実施設計、運営計画で検討を進める。
- メーカー等と協力し、モックアップ検証を行う。

6. カームダウン・クールダウン

<主なご意見>

- 各階に1カ所配置は妥当。休憩室は別に確保。内装・設備への多数の具体的意見。
- 事前にカームダウン・クールダウンがあること周知。来館前に予習しておきたい。

<今後の方針>

- 内装仕上、設備、備品、休憩・待合スペースなど、建築実施設計で検討を進める。
- 事前予習への対応やスタッフの付き添いなど、運営計画で検討を進める。

7. サイン

<主なご意見>

- どこに進めばいいか、視覚的にわかるといい。
- 床材の違いはスムーズな移動につながる。点字ブロックは場所により危ない。

<今後の方針>

- 建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。

8. 災害時対応

<主なご意見>

- 避難経路を具体的に示してほしい。また視覚的にわかりやすくしてほしい。

<今後の方針>

- 建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。

9. スタッフの職場環境

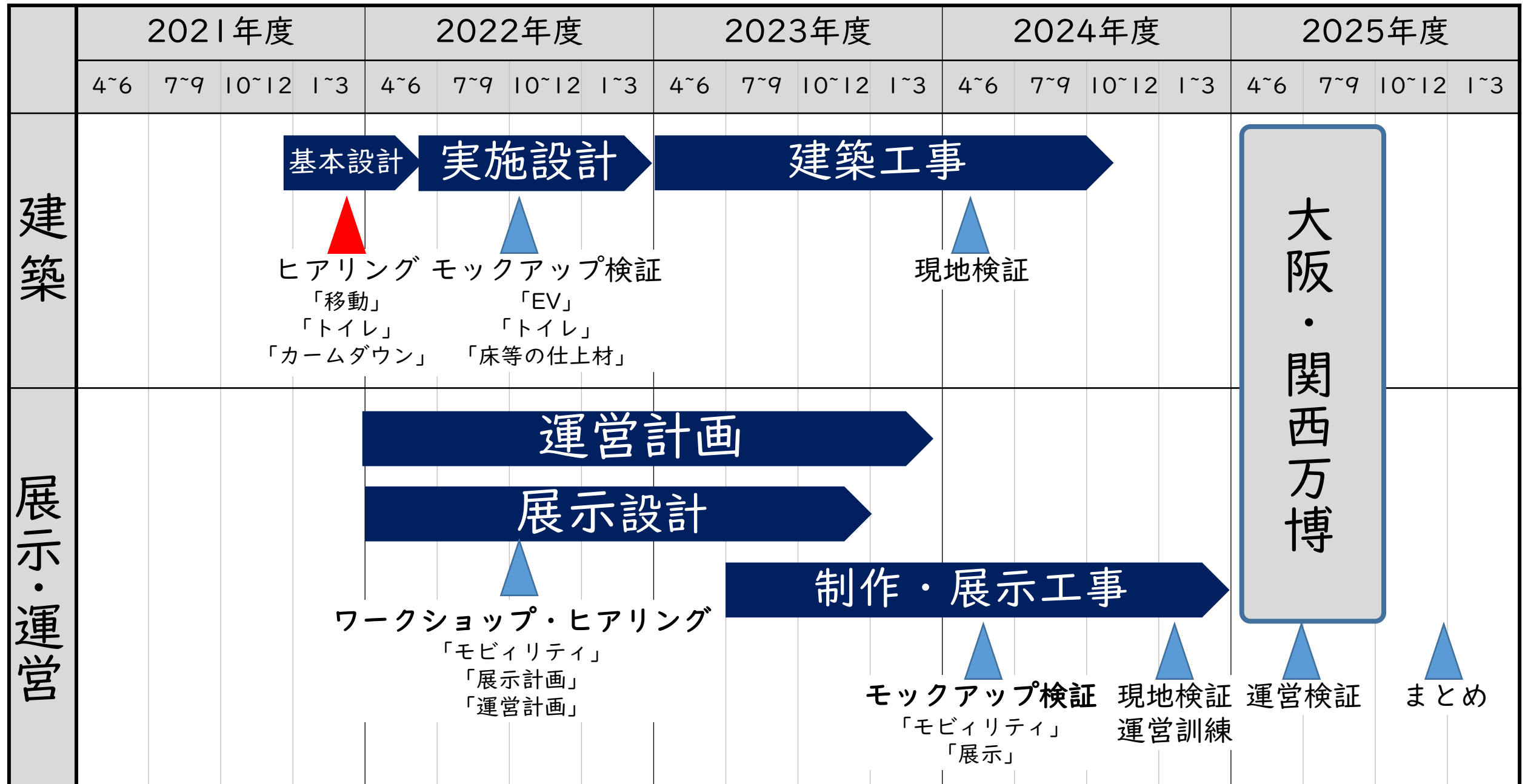
<主なご意見>

- 東京ディズニーランドは知的障がい者の雇用が進んでいる。

<今後の方針>

- 運営計画で検討を進める。

ユニバーサルデザインに関する関係者ワークショップ等の想定スケジュール



【建築】

- ・ 2022年6月から実施設計（詳細設計）に着手。詳細設計の進捗に応じて、案の提示やモックアップ検証等を行う。
- ・ 建築工事中に、安全に配慮したうえで、現地での検証を行う。

【展示・運営】

- ・ 設計計画の進捗に応じて、ワークショップ・ヒアリングを行う。
- ・ 制作・工事中に、安全に配慮したうえで、モックアップ検証や現地検証・運営訓練を行う。
- ・ 会期中に、運営の検証を行い、会期後は全体を通じたまとめを行う。

OSAKAパビリオン

[ユニバーサルデザイン編]

2022.06.15

大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの方向性検討

目的

- ・世界中から訪れるすべての来館者が、国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいに関わらず、**楽しみ、快適に過ごせるパビリオン**の実現。



ルールづくりを目的化しない。

- ・展示に関わるサインや解説、什器、動線のすべてに、ユニバーサルデザインの思想を徹底。
- ・「居心地のよい空間」「楽しい展示」にこだわったパビリオン体験の実現を目指す。

大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの方向性検討

方針

- ・ 石塚裕子エキスパートのもと、建築、展示・運営について、**当事者の意見を
取り入れ**ユニバーサルデザインの実現をめざす。
- ・ 法令、博覧会協会のガイドライン等の遵守はもとより、**2050年のユニバーサル
デザインのあり方体現にチャレンジ**する。



「ために」から「ともに」へ、発想を変える設計プロセス

- ・ 立場をこえて分かち合い、創造的なアイデアを“ともに”設計するプロセスを導入。
- ・ 当事者の皆さまと展示・運営に関わるチーム、また学生の参加なども検討し、
全員が同じ場を共有し、お互いの立場を深く理解しながらアイデアを検討。

大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの検討方法

インクルーシブデザインワークショップ

設計段階から、ワークショップを行い、監修者や設計者が気づかなかった設計案の課題や改善点を抽出。アイデア検討やモックアップ製作を経て、よりよい展示体験にアップデートする。

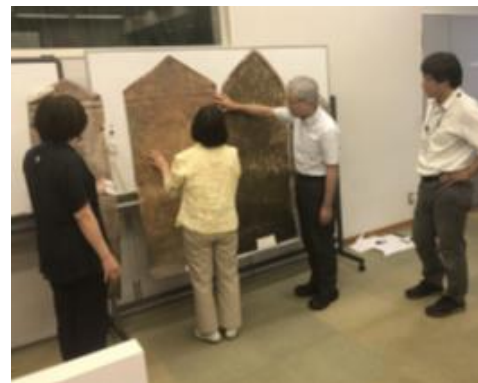
①プロセス

A 共感・問題提起・共創



ユーザーとのワークショップを通して潜在的ニーズを掘り起こす。共にアイデアを出して、あらゆるバリアへの対応に発想を拡張。

B プロトタイプ作成



簡単な材料でプロトタイプを作成し、改良を重ねる。

C 評価検証



プロトタイプが有効なものかどうか評価し、問題点を整理し改良する。

大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザイン検討項目（案）

すべての来館者が楽しめるためのハード的な検討

- カームダウン等のサービス施設の設置
- 車いす、ベビーカー等、館内にそのままアクセス可能な展示観覧動線等を設定
- 乗車型の展示体験(モビリティ乗り物)への乗車
- 視認性(高さ等)や座席・スペース等の確保
- 最新技術等も活用し、音声ガイドや字幕等による展示解説や展示体験等の操作性への配慮
- 照明、カラーリング、デザイン、文字サイズ等の配慮
- 安全性への配慮
- その他、個別の展示内容に応じて検討

すべての来館者が楽しめるためのソフト的な検討

- 来館者への事前情報提供(館内マップ・センサリーマップ等)
- スタッフ研修等の実施により、すべてのスタッフの理解促進と適切なサポートの実施
- 必要に応じてアテンダントやボランティアによる観覧サポート
- 来館予約における配慮(協会予約システム確認)
- 飲食における宗教的な配慮
- 緊急時における安全対策(アラート方法等)

資料：【資料1】220609_220615UD 報告会資料（万博推進局）

資料の内容は、以下の3点

- ・3月に行ったヒアリング結果のとりまとめ状況
- ・建築図面
- ・今後について

（パワーポイント資料 2ページ目）

ヒアリング経過（テーマ、日時、内容、参加者の順）

第1回 移動① 3月8日 10時から12時 館内の移動計画（EV、スロープ等） 車いす利用者ほか

第2回 トイレ① 3月8日 13時半から15時半 トイレの平面計画（機能分散など） 車いす利用者ほか

第3回 移動②とトイレ② 3月14日 10時から12時 館内の移動計画、トイレの平面計画 視覚障がい者、聴覚障がい者ほか

第4回 カームダウン・クールダウン① 3月14日 13時半から15時半 カームダウン・クールダウンのための部屋、設備のあり方 知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者ほか

第5回 移動③とトイレ③とカームダウン・クールダウン② 3月25日 10時から12時 館内の移動計画、トイレの平面計画、カームダウン・クールダウンのあり方 上記に参加できなかったかた中心

（パワーポイント資料 3ページ目）

ヒアリングで出た意見の分類表。

大項目は1から9、中項目はアルファベット、中項目の後ろのカッコ内が小項目。

1. 方向性・進めかた

- a.会場内の共通化
- b.ルート、移動手段
- c.カームダウン、クールダウン
- d.トイレ（配置、便房内設備）
- e.進めかた（進めかた、モックアップ検証）

2. ルート・移動手段

- a.ルート（ルートの輻輳、同じルート、合流、ルートの離脱、進む方向、ショートカット）
- b.スロープ、通路（長さ、幅、勾配、手すり、休憩・待合スペース）
- c.エレベーター（大きさ）
- d.階段

3. 展示

- a.ハード面（モビリティ、レストラン、ミライのエンタメ、観覧スペース、照明）
- b.誰もが楽しめる工夫（振動・光、音・匂い、触覚、モバイル、色、モビリティ）
- c.展示メッセージ

4. 来館者への対応

- a.来館者の事前準備の対応（幅広い発信、事前に欲しい情報、WEB、リーフレット、情報端末・支援アプリ）
- b.来館者へのパビリオン内での対応（受付・案内所、スタッフ案内、食事、聴覚障がい者のアテンド、案内表示板・デジタルサイネージ、カームダウン・クールダウンルーム利用者へのアテンド、リーフレット、音声案内、情報端末・支援アプリ）
- c.貸出対応（車いすの貸出、充電設備、情報端末・支援アプリ）
- d.行列への対応（予約方法、暑さ対策、ミライのエンタメ（催事場））

5. トイレ

- a.パビリオン内の配置と運用（配置、運用・考え方）
- b.案内（配置図・触知図、空き表示、点字ブロック・音声案内、サイン）
- c.便房の種類・数（大型車いす便房、共用トイレ、一般便房、オストメイト、こども・ベビーカー利用）
- d.便房の広さ（車いす用便房、一般便房）
- e.扉（開き勝手、間口）
- f.トイレ内の設備（フィッティングボード、ベンチ、大型ベッド、災害時・緊急時、音姫・サニタリーボックス、洗浄ボタン、手すり、カーテン）

6. カームダウン・クールダウン

- a.設置（位置、数、広さ、休憩室、入り口）
- b.内装、設備（壁、光、音、グッズ、鍵、呼出ボタン）
- c.利用者への配慮（事前予習、アテンド、マップ）

7. サイン

- a.サイン、誘導（表示、色、模型、床仕上げによる工夫）

8. 災害時対応

- a.避難（避難経路、避難階段、避難誘導）

9. スタッフの職場環境

- a.職場環境（バックヤード、スタッフ雇用）

（パワーポイント資料 4ページ目から7ページ目まで）

3ページ目の分類に従い、ヒアリングで出た意見を整理している。

大項目は1から9、中項目はアルファベット、小項目はアイウエオ。

1. 方向性・進め方

a.万博会場全体での共通化

- ・統一は、今までなかった試みとなるので、2050年に向けて万博から発信を。

b.ルート、移動手段

- ・スロープでの移動は、誰もが同じルートで楽しめ、インクルーシブの発信にもなる。
ぜひ2050年のユニバーサルデザインをめざしてほしい
- ・これからのモデルになるような未来のEVをめざしてほしい

c.カームダウン、クールダウン

- ・万博会場全体は難しいと思うので大阪パビリオンの中だけでも作成してほしい
- ・大阪ならではのカームダウン・クールダウンにしてほしい

d.トイレ

ア.配置

- ・男、共用、女の、トイレ内の並びを会場内で統一してほしい
- ・便房の並びについて、例えば、広い方は奥、狭い方は手前に設置など、共通化されているとわかりやすい
- ・トイレ内の男、共用、女の並びについては、PV内の1、2階で共通か？
万博会場内でも統一できる部分は統一してほしい

イ.便房内設備

- ・一般トイレの便房内の設備配置は万博会場内でパブリックモデルに統一してほしい
- ・一般トイレはボタンの形式や設置位置を博覧会モデルに統一してもらえるとありがたい
- ・統一は、今までなかった試みとなるので、2050年に向けて万博から発信を

e.進め方（進め方、モックアップ検証）

ア.進め方

- ・後から特別対策が必要、とならないように

イ.モックアップ検証

- ・便房の奥行や幅はモックアップ検証しないと使用できるかどうかの判断困難
- ・一般用トイレもモックアップ検証してほしい
- ・モックアップ検証の時に視覚障がい者の参加もお願いしたい
- ・車いす用トイレの扉や便器等の配置は、いろんなパターンの検証を
- ・閑空のモックアップ検証が移動円滑化近畿分科会のHPで確認できる

2. ルート・移動手段

a.ルート

ア.ルートの輻輳

・AとBルートはかさなっている？

イ.同じルート

・主な動線が同じ、足が不自由でも同じルートを通れるというのはとても良い

ウ.合流

・友人や家族で来た場合、モビリティに乗る人と乗らない人の合流は可能か

エ.ルートの離脱

・体調によっては展示を全部見るのがしんどいことがあるので、一部だけ見たり、途中で抜けることができるといい

オ.進む方向

・逆走ルートの確保が必要

・トイレなどに行ったあとに元の場所に戻りたい

・一方通行の原則は崩せない？展示やカームダウンとトイレなど行き来したい

・会場の混雑具合によるが、すし詰め状態になると、逆行は論外

カ.ショートカット

・歩行困難者のためなど、EVを利用する人のルートも考える必要があると思う

・スロープに展示がないと、ただの通路になり、EV利用者が増えるのではないか？

b.スロープ、通路

ア.長さ

・スロープはしんどい人がいる

・展示がなければ長く感じる

イ.幅

・必要最小限の幅員は？

・『ゆっくり移動』と『早く移動』の動線が必要

・1列か2列を想定か？

ウ.勾配

・1/20勾配はいい

・横勾配は？

・主動線なら勾配はゆるく

・スロープの移動が苦手な人もいる

・1/20勾配の下りでもしんどいと感じる方もいる

・手話をしながら歩くので、足元を気にしなくていい

エ.手すり

・手すりを利用する人もいる

オ.休憩、待合スペース

・スロープの途中で休憩できるスペースやエスケープゾーンがあるといい

・動線と静止空間を分ける事例が成田空港にある

- ・待合せエリアを作ってほしい（例）円の中に足跡マークなど
- ・子どもも大人も関係なく、「この床のサインの場所に最後に集合しよう」など決めることができたらい

c.エレベーター

ア.大きさ

- ・EV使用のルートを設定するなら、EVは大きい方がいい17人用で足りるのか？

d.階段

- ・動線は階段の移動も含めて検討した方がいい

3. 展示

a.ハード面

ア.モビリティ

- ・何分乗るのか、何人乗り？
- ・車いす利用者は乗れるのか
- ・車いすのまま乗れるようにしてほしい
- ・グループで楽しめるよう複数乗車できることは大事

イ.レストラン

- ・レストラン内の通路は車いすが通れる幅を確保してほしい

ウ.ミライのエンタメ

- ・床はフラット？座席数は？
- ・車いす利用者などの障がい者用の座席はある？
- ・待ち時間は？
- ・出入りの動線は？

エ. 観覧スペース

- ・読んだり聞いたりするのに時間がかかる。列を乱さずに展示を楽しめるスペースはあるのか。

オ. 照明

- ・足元に照明がほしい。暗いと口元は手話が見えないので会話できない

b.誰もが楽しめる工夫

ア. 体験方法

- ・音声を振動や光に変えて演出すれば、聞こえなくても感じるができる
- ・振動を活用した展示
- ・音楽のイメージがリズムでわかると一体感を持って体験できる
- ・展示内容が「携帯アプリの音声案内」や「ハンディガイドの貸出」等で理解できるといい
- ・見えなくても楽しめる展示がいい

- ・視覚障がい者に限らず触って楽しめる展示がいい

イ. 空間把握

- ・階や部屋の区別をするために音やにおいを変える

ウ. 色

- ・弱視者対応は文字の白黒反転や、きつい色の仕様がよい

エ. モビリティ

- ・内容が音声などの視覚以外の方法でわかるのか。静かな中で終わるのは寂しい
- ・結果を音声で伝えると体重や骨年齢等を同乗している人に知られてしまう

c. 展示メッセージ

- ・健康という視点で聴力を大事にするというトピックを入れてほしい

4. 来館者への対応

a. 来館者の事前準備への対応

ア. 幅広い発信

- ・大阪メトロはバリアフリーの事例を車内広告で広く発信している。そういう形で当事者やいろんな人に周知できれば

イ. 事前に欲しい情報

- ・カムダウン・クールダウンルームのJISマークにイメージ写真や説明もプラスすれば、子供や高齢者、障がい者のいる家族も個人で初めて利用する人もわかりやすく予習できる

- ・フードの提供がある場合、どんなサービスがあるか事前にわかると助かる

ウ. ウェブ

- ・事前にホームページなどで、各パビリオンの内容や音声案内の有無など、大まかでもわかるといい

エ. リーフレット

- ・事前にパンフレットの取寄せができることと予習できる

オ. 情報端末・支援アプリ

- ・各パビリオンの混雑状況などを個々のデバイス、スマホで取得できるといい
- ・いろんな情報をアプリで取得できたらいい

b. 来館者へのパビリオン内での対応

ア. 受付・案内所

- ・受付に耳マーク、手話マーク、国際手話等の案内があると、聴覚障がい者も楽しめるという発信になる

イ. スタッフ案内

- ・スタッフの案内は、手話やジェスチャーを交えてほしい

ウ. 食事

- ・リボンレストランでの食事方法は？食べ歩きを認めた場合、飲食の匂いが気になることがある

エ. 案内表示板・デジタルサイネージ

- ・羽田空港では、カームダウン・クールダウンという電子表示板を押したら、場所がパッと出てきたり、トイレ情報も表示されていてわかりやすかった
- ・車いすや杖使用者、背中が曲がっている人の視線は低いいため、デジタルサイネージの位置によっては光の加減で見づらい
- ・センサリーマップには光・音・匂いなどの情報を表示してほしい
- ・多言語型のデジタルサイネージで表示してほしい
- ・行列が何の列かわかるように音声と表示がほしい

オ. 聴覚障がい者のアテンド

- ・日常のコミュニケーションは手話や筆談、音声認識アプリを使用
- ・手話言語の人には手話がないと伝わらない
- ・手話のことは、ろうあ団体の人に意見を聞くのがよい
- ・手話通訳には日本手話と国際手話があり、どちらも表示できるとよい
- ・モニター案内に、ワイプ(文字?)だけでなく手話通訳の案内があるといい

カ. カームダウン・クールダウン利用者へのアテンド

- ・ルームを一人で利用する人のために、必要に応じてスタッフが付き添ってほしい

キ. 音声案内

- ・音声案内は、スムーズな移動につながる

ク. リーフレット

- ・リーフレット等に、カームダウン・クールダウンルームのJ I Sマークにプラスして、イメージ写真や説明もあれば、どんな場所なのか初めての人もわかりやすい
- ・予習ツールとしてセンサリーマップを作成してほしい。

ケ. 情報端末・支援アプリ

- ・視覚障がい者に限らず、音声ガイドで展示の説明を受ければ安心
- ・UDトークを大阪パビリオンでも作れば良いと思う
- ・日常のコミュニケーションは手話や筆談、音声認識アプリを使用している
- ・迷ったときに現在地がスマホで確認できればありがたい
- ・シミュレーションアプリやナビ、マップで事前予習したい

c.貸し出し対応

ア. 車いすの貸出

- ・貸出用の車いすも考えてみては？
- ・車いす貸出は、愛知博では高齢者が多く来場し不足していた。
- ・利用想定数を検討してほしい

イ. 充電設備

- ・各施設に、スマホや電動車いすの充電設備があるといい
- ウ. 情報端末・支援アプリ
 - ・スマホ未使用者には、万博会場で貸出し、新しい体験ができればいい
- d. 行列への対応
 - ア. 予約方法
 - ・高齢者や障がい者の優先時間を設定するなどの工夫が必要ではないか
 - イ. 暑さ対策
 - ・行列を想定した庇等の暑さ対策は？体温調節が難しい障がいもある
 - ウ. ミライのエンタメ（催事場）
 - ・待ち時間は？

5. トイレ

a. パビリオン内の配置と運用

ア. 配置

- ・1F、2Fのどちらかのトイレに人が集中しないか
- ・女性用少。風営学会基準よりスフィア基準を参考
- ・機能分散の整理が必要

イ. 運用・考え方

- ・混雑時に職員用トイレも使用
- ・見えにくい障がいの人も堂々と使える仕組みを
- ・重複障がい、LGBTQ、ダブルマイノリティの人も。見かけは男性で中身は女性もいて配慮が必要

b. 案内

ア. 配置図・触知図

- ・印刷物で事前配布してほしい。パビリオン全体も含め、事前に触っておける方がありがたい
- ・触地図について、事前配布して見てもらうのが一番いい。現地の触知図もあった方がいい
- ・トイレの触地図、触りたくない人もいる
- ・弱視者としては白黒にはこだわらないが貼ってあると確認ができる
- ・点字は賑やかな中でも読めて確実に情報が入るので、点字で情報があるとわかりやすい

イ. 空き表示

- ・パッと見てどこが空いているのかわかるようにしてほしい
- ・入口に混雑状況がわかるモニターがあれば、中に入らなくてもトイレ前で並ぶことが可能

ウ. 点字ブロック・音声案内

- ・各トイレのエリアごとに音声ガイドや点字ブロック等で誘導を
- ・音声案内がないと見つけにくく、何がどこにあるかがわからない

エ. サイン

- ・共用トイレのサインは、多目的トイレや多機能トイレと表示すると一般の方も使用してしまう

c. 便房の種類・数

ア. 大型車いす便房

- ・普段トイレを利用しない車いすユーザーも利用する
- ・全体の1/3が車いす用で、数的には満たしている
- ・電動車いすユーザーが使えるブースの数
- ・数が足りるか不安

イ. 共用トイレ

- ・左麻痺、右麻痺の方が使用できる設備配置を
- ・車いすと一般利用者を分けるために、共用トイレにも一般ブースを設置
- ・パス度が低い人も入りやすいトイレ必要
- ・車いすのことを考えると多目的トイレは使いにくい
- ・男女共用やバリアフリー用に並ぶ人が増えると、必要とする人が使えなくなる
- ・利き手の違いで車いす便房の左右を変えるように、男女共用トイレエリア内での機能分散を

ウ. 一般便房

- ・男女各トイレにも車いす用を設置しては
- ・一般便房がベビーカーごと入れる大きさだと機能分散になる
- ・松葉杖、高齢者（杖）は一般トイレを使用する

エ. オストメイト

- ・大型便房以外にも男女トイレにそれぞれ1基ずつ、または、男女共用の小さめのブースにほしい

オ. こども・ベビーカー利用

- ・キッズトイレは計画しているか？
- ・一般便房がベビーカーごと入れる大きさだと機能分散になる

d. 便房の広さ

ア. 車いす用便房

- ・1,500×1,800だと手動車いすでも横付けで移れる人だけ。サイズが厳しいのでモックアップ検証を
- ・男女共用の便房(1,500×2,140)は、義足の人はこれくらいの大きさの方が利用しやすい

- ・車いす便房は広すぎて出口などわかりにくい

イ. 一般便房

- ・一般便房にベビーカーごと入れると機能分散になる
- ・狭いブースが利用しやすい

e. 扉

ア. 開き勝手

- ・引き戸が基本だが、折れ戸・内・外開き等を整理・検証を
- ・健全な高齢者も外開きだと空きが分からない
- ・内開きは白杖でわかるが外開きは手で1つずつ触らないといけない
- ・内開きの方が空きを見つけやすい
- ・松葉杖だと内開きは狭いので外開きがよい
- ・内開きでジャバラでない形がいい
- ・折れ戸の使用も検討を
- ・折れ戸は開け方がわからず困ることがある
- ・折れ戸は鍵の位置がわかりにくい

イ. 間口

- ・脊髄損傷者は、一般便房の間口を広くして便器に対してまっすぐに入ることができれば自己導尿の対応はできる
- ・ベビーケアルームの入口は車いす利用者も利用できるようにしてほしい

f. トイレ内の設備

ア. フィットティングボード

- ・フィッティングボードが畳まれていないと利用難しい場合がある
- ・女性がパンストを替える、小さい子ども、精神障がい者で下痢をしやすい方、高齢者尿疾患のある方、自己導尿されている方など、着替えることはよくあるので一般トイレにも男女2か所ずつくらい設置を
- ・便房内に設置されている方が1回で済ますことができる
- ・家族でも使えるフィッティングルームがあれば

イ. ベンチ

- ・カームダウン・クールダウンの場所としても使える
- ・大型ショッピングモールのトイレ内ベンチは使い勝手が良い

ウ. 大型ベッド

- ・おむつを利用している高齢者の来場も増える可能性がある

エ. 災害時・緊急時

- ・災害時用フラッシュライトの設置検討を
- ・各個室に設置せずともフラッシュがわかればよい
- ・体調不良時に使うブザーは各個室にほしい

オ. 音姫・サニタリーボックス

- ・男性用トイレにも「音姫」の設置を
- ・男性用の全ブースに脱臭機能のあるサニタリーボックスの設置を

カ. 洗浄ボタン

- ・高齢者にとっても流すボタンの形状がバラバラだと困る
- ・洗浄ボタンが見つからず、使い方もいろいろあり戸惑ってしまう

キ. 手すり

- ・一般便房等全てのトイレに手すりがあると安心

ク. カーテン

- ・男女共用トイレに異性同伴利用を考慮しカーテン設置を
- ・車いすの操作の支障になる。アコーディオンカーテンならよい
- ・便器から離れた方にカーテンを設置すれば矛盾が解消できる

6. カームダウン・クールダウン

α. 設置

ア. 位置

- ・1階アトリウムと2階モビリティ降り口付近に各1ヶ所の配置は妥当。空きスペースの有効活用は大事
- ・排気口を避けた位置
- ・設置位置は当事者に意見を聞く方がよい

イ. 数

- ・広すぎるなら分割してほしい
- ・大きさ変えて2つ配置しても

ウ. 広さ

- ・横になれるスペース
- ・広い部屋を2分割しても家族で入れると思うが、壁をはずして1部屋にできるようにしてほしい

エ. 休憩室

- ・休憩室はカームダウン・クールダウンとは別
- ・簡単に休憩できるスペース
- ・落ち着く、休憩がとれる

オ. 入口

- ・入口幅を確保
- ・中部国際空港では、入口を暖簾、足元見える
- ・足元は見える方がよい

b.内装・設備

ア. 壁

- ・落ち着いた色、やわらかい素材、緩衝機能
- ・中部国際空港では、壁をヒノキ
- ・休憩の仕方、吸音パーテーション

イ. 光

- ・視界遮るカーテン、暖簾洋服のフード、サングラス
- ・照明は間接照明調光も

ウ. 音

- ・ヘッドフォンで自分の必要な音だけ取得
- ・遮音性低いならイヤーマフを設置
- ・聴覚過敏には遮音でBGMなし
- ・イヤーマフの使用

エ. グッズ

- ・落ち着く、休憩や仮眠がとれる設備
- ・待てる仕組みアイキャッチ
- ・時計は必要。上の方に設置
- ・なるべく物は置かない
- ・休憩の仕方、リラックスボックス、嘆きのツボなど

オ. 鍵

- ・施錠による閉じ込め対策
- ・防犯対策必要
- ・必要としない人が占有する可能性あり
- ・鍵の有無は1階と2階でパターン変えても

カ. 呼出ボタン

- ・一人で利用する人のために、スタッフの呼び出しボタンがほしい

c.利用者への配慮

ア. 事前予習

- ・シミュレーションアプリやセンサーマップ、ナビ的なもので事前予習したい
- ・事前にカームダウン・クールダウンがあることを周知してほしい
- ・WEBで、未経験者にカームダウン・クールダウンはどんなものなのか知ってもらう
- ・WEBに家でできる使い方の練習方法を掲載し、練習してもらえれば本番で安心して使用できる

イ. アテンド

- ・一人で利用する人のために、必要に応じてスタッフが付き添ってほしい

ウ. マップ

- ・センサリーマップを作って、光・音・匂いなどの情報を表示してほしい

7. サイン

a. サイン・誘導

ア. 表示

- ・乗り物の乗降や列について歩くのに時間がかかる。周りに人がいないとルートを見失ってしまう。そのあたりの誘導が必要
- ・どこに進めばいいのか視覚的にわかるといい

イ. 色

- ・弱視者には色を変えることも大切

ウ. 模型

- ・全体が触れるパビリオン全体の模型があると空間が把握しやすい

エ. 床仕上げによる工夫

- ・点字ブロック以外で足裏でわかる素材の道標はあるか
- ・ゴム素材は白杖が引っかかりやすい。カーペットなどの素材がいい
- ・床材の違いはスムーズな移動につながる
- ・点字ブロックの代わりにレールや芝生を配置し、通路をわかりやすくしている事例があった
- ・点字ブロックは、トイレやエレベータなどの主要箇所には必要だが、それ以外の場所にあると引っかかるので危ない
- ・起点となるところの床材が少し違うなどの工夫があると、出発点に戻ってきたという安心感があるし、行きたい方向がつかみやすくなる
- ・床材の色や素材で視覚的に動線と静止空間が区別できる工夫をしてほしい

8. 災害時対応

a. 避難

ア. 避難経路

- ・経路を具体的に示してほしい
- ・避難経路としてスロープを逆走することもあるのでは？

イ. 避難階段

- ・避難階段はある？

ウ. 避難誘導

- ・スロープや廊下の足元をブラックライトで照らすなど検討してほしい
- ・避難経路を視覚的にわかりやすくしてほしい

- ・アプリやデジタルサイネージを利用すれば、より鮮度の高い情報が得られる

9. スタッフの職場環境

a. 職場環境

ア. バックヤード

- ・パビリオンで障がい者が働くなら、バックヤードのバリアフリーなどの基準はあるか？

イ. スタッフ雇用

- ・東京ディズニーランドは知的障がい者の雇用が進んでる

(パワーポイント資料 8ページ目)

大阪パビリオン 平面プラン案

○主な変更点

- ・モビリティ・展示室の配置を変更
 - ➔3月のヒアリングやドバイ万博の運用状況等をふまえ、円滑でわかりやすい体験とするためワンルート化
- ・ミライのエンタメの別棟
 - ➔運営のしやすさ等を考慮し、さまざまなコンテンツを柔軟に提供できるよう別棟化
- ・バックヤードの別棟
 - ➔コスト削減、運営のしやすさを考慮し別棟化

○図面の説明

※別途お送りしている「立体コピー図面の説明用テキストデータ」ファイルをご参照ください。

(パワーポイント資料 9ページ目)

ヒアリングで出た主な意見と今後の方針

大項目は1から9

1. 方向性・進め方

○主な意見

- ・万博会場全体での統一化は今までなかった試み。2050年に向けて万博から発信を
- ・後から特別対策が必要、とならないように。モックアップをしてほしい

○今後の方針

- ・博覧会協会と情報共有、連携しながら、モデルとなるパビリオンをめざす
- ・製作や工事の前に、可能な限りモックアップによる検証や現地確認などを行う

2. ルート・移動手段

○主な意見

- ・スロープが主動線なら勾配はゆるく。1/20 勾配はいい。しんどい人もいる。
- ・スロープに展示がないとただの通路となり長く感じる。
- ・途中で休憩できるスペースやエスケープゾーンがあるとよい。
- ・EV 使用のルート設定なら EV は大きい方がいい。

○今後の方針

- ・手すり等の詳細や休憩・待合スペースの設定は、建築実施設計で検討を進める

3. 展示

○主な意見

- ・モビリティは車いすのまま、またグループで楽しめるようにしてほしい。
- ・読んだり聞くのに時間がかかる。列を乱さずに展示を楽しめるスペース確保を。
- ・見えなくても楽しめる展示いい。音声を振動や光に変えて演出すれば、聞こえなくても感じるができる。触って楽しめる展示がいい。

○今後の方針

- ・展示設計、運営計画で検討を進める。

4. 来館者への対応

○主な意見

- ・事前にホームページやパンフレットなどで各パビリオンの内容や音声案内の有無、光・音・匂いなどの情報がわかると予習できてよい。
- ・混雑状況や展示説明など、いろんな情報をアプリで取得できたらよい。
- ・モニター案内に文字だけでなく手話通訳の案内があるとよい。
- ・行列を想定して、高齢者や障がい者の優先時間の設定や、庇等の暑さ対策が必要

○今後の方針

- ・建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める

5. トイレ

○主な意見

- ・見えにくい障がいの人も堂々と利用できるよう、配置やサインの仕組みを。
- ・トイレの配置図を事前に配布してもらえると予習できて、ありがたい。
- ・便房の種類など、機能分散に関して多数の意見あり。モックアップ検証を。
- ・便房の扉の使い勝手は様々なので整理検証を。他、設備に対して多数の意見あり。

○今後の方針

- ・建築基本設計、運営計画で検討を進める。
- ・メーカー等の協力し、モックアップ検証を行う。

6. カームダウン・クールダウン

○主な意見

- ・各階に1カ所配置は妥当。休憩室は別に確保。内装・設備への多数の具体的意見。

- ・事前にカームダウン・クールダウンがあること周知。来館前に予習しておきたい。

○今後の方針

- ・内装仕上、設備、備品、休憩・待合スペースなど、建築実施設計で検討を進める。
- ・事前予習への対応やスタッフの付き添いなど、運営計画で検討を進める。

7. サイン

○主な意見

- ・どこに進めばいいか、視覚的にわかるといい。
- ・床材の違いはスムーズな移動につながる。点字ブロックは場所により危ない

○今後の方針

- ・建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。

8. 災害時対応

○主な意見

- ・避難経路を具体的に示してほしい。また視覚的にわかりやすくしてほしい。

○今後の方針

- ・建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める

9. スタッフの職場環境

○主な意見

- ・東京ディズニーランドは知的障がい者の雇用が進んでいる

○今後の方針

- ・運営計画で検討を進める

(パワーポイント資料 10ページ目)

今後のユニバーサルデザインに関する関係者ワークショップ等の想定スケジュール

○建築のスケジュール

- ・2022年6月から2023年3月まで建物の実施設計を進め、2023年4月に工事着手予定。
- ・詳細設計の進捗に応じて、案の提示やモックアップ検証等を行う。
- ・建築工事中に、安全に配慮したうえで、現地での検証を行う。

○展示・運営のスケジュール

- ・今年度から来年度後半にかけて、展示設計、運営計画が進められる。来年度は展示の制作工事も並行して進められていく。
- ・設計計画の進捗に応じて、ワークショップ・ヒアリングを行う。
- ・制作・工事中に、安全に配慮したうえで、モックアップ検証や現地検証・運営訓練を行う。
- ・会期中に、運営の検証を行い、会期後は全体を通じたまとめを行う。

(パワーポイント資料 11ページ目)

タイトル: OSAKA パビリオン [ユニバーサルデザイン編] 2022.06.15

資料の内容は、大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインについて

(パワーポイント資料 12ページ目)

タイトルは、大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの方向性検討。

目的は、世界中から訪れるすべての来館者が、国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいに関わらず、楽しみ、快適に過ごせるパビリオンの実現。

達成に向けては、ルール作りを目的とせず、展示に関わるサインや解説、什器、動線のすべてに、ユニバーサルデザインの思想を徹底し、「居心地のよい空間」「楽しい展示」にこだわったパビリオン体験の実現を目指す。

(パワーポイント資料 13ページ目)

タイトルは、大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの方向性検討。

検討方針は、『「ために」から「ともに」へ、発想を変える設計プロセス』。

- ・立場をこえて分かち合い、創造的なアイデアを“ともに”設計するプロセスを導入。
- ・当事者の皆さまと展示・運営に関わるチーム、また学生の参加なども検討し、全員が同じ場を共有し、お互いの立場を深く理解しながらアイデアを検討。

(パワーポイント資料 14ページ目)

タイトルは、大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザインの検討方法。

インクルーシブワークショップ

設計段階から、ワークショップを行い、監修者や設計者が気づかなかった設計案の課題や改善点を抽出。アイデア検討やモックアップ製作を経て、よりよい展示体験にアップデートする。

プロセスは以下のAからC。

Aは「共感・問題提起・共創」。ユーザーとのワークショップを通して潜在的ニーズを掘り起こす。共にアイデアを出して、あらゆるバリアへの対応に発想を拡張。

Bは「プロトタイプ作成」。簡単な材料でプロトタイプを作成し、改良を重ねる。

Cは「評価検証」。プロトタイプが有効なものかどうか評価し、問題点を整理し改良する。

(パワーポイント資料 15ページ目)

タイトルは、大阪パビリオンの展示・運営に関するユニバーサルデザイン検討項目案。

すべての来館者が楽しめるためのハード的な検討として、以下の8点。

- ・カームダウン等のサービス施設の設置
- ・車いす、ベビーカー等、館内にそのままアクセス可能な展示観覧動線等を設定

- ・乗車型の展示体験（モビリティ乗り物）への乗車
- ・視認性（高さ等）や座席・スペース等の確保
- ・最新技術等も活用し、音声ガイドや字幕等による展示解説や展示体験等の操作性への配慮
- ・照明、カラーリング、デザイン、文字サイズ等の配慮
- ・安全性への配慮
- ・その他、個別の展示内容に応じて検討

次に、すべての来館者が楽しめるためのソフト的な検討として、以下の6点。

- ・来館者への事前情報提供（館内マップ・センサーマップ等）
- ・スタッフ研修等の実施により、すべてのスタッフの理解促進と適切なサポートの実施
- ・必要に応じてアテンダントやボランティアによる観覧サポート
- ・来館予約における配慮（協会予約システム確認）
- ・飲食における宗教的な配慮
- ・緊急時における安全対策（アラート方法等）

以上。